

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0278
施設名	光明第五保育園
施設所在地	八王子市山田町1 6 8 8 - 2
法人名	社会福祉法人多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

《光～色の変化と自然物の観察》

<テーマの設定理由>

天気の良い日に子ども達が窓に塗り絵の紙と別の紙を重ねて透けた絵を紙に書き写している姿を見て、天気が悪い日でも、いつでも遊べるようにする為にはどうしたら良いかという意見が保育者から出た為、調光可能なテーブルを購入し子ども達の姿を観察してみようということになった。

2. 活動スケジュール

令和6年9月にJ A K U E T Uより「hikari to table」「イロイロモザイク」10月に手のひらサイズの立体図鑑「キューブック」を購入。その後保育者間で子ども達に安全に遊ばせられるようにする為にはどんな約束と環境が必要か意見交換をしたり、実際に使用してみたりと内部研修を実施。1月に年長児が就学準備の為、午睡をせずに一日を過ごすようになりその時間に部屋の一部を暗くし遊べるようにして見守った。令和7年4月に年少児～年中児を対象に色の変化や自然物（植物と鉱物）の観察遊びが出来るように環境を作り見守った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・「hikari to table」「イロイロモザイク」「キューブック」を購入

保育室内で使用する際に一部暗く出来る場所に「hikari to table」を設置し、且つ使用する際はパーテーションを設置し周囲からの刺激を極力減らし光と色の変化の世界に没頭出来る様にした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○カラーアクリル板を重ね色の変化を観察する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

《DAY 1》



初めて「hikari to table」を見て、テーブルが光る前と後の瞬間の子どもの表情



驚きとともにワクワクやドキドキといった感情を抱いた瞬間



「イロイロモザイク」を初めて手にしてみても、色の美しさや感触を楽しんでいる



「イロイロモザイク」が透けている事に気づき、向こう側にいる保育者を「イロイロモザイク」を通して覗いている



テーブルに置き重ね色の変化を楽しんでいる



色を重ねることで濃くなったり、色が変わる事に気づき様々な色を組み合わせることで遊びが広がり、想像力を膨らませるきっかけに繋がっていた。



《DAY 2》



保育者の声掛けにより、「hikari to table」に透過させた草花や自然物を集めることになり、ビニール袋を片手に採集をする子ども達。



実際に透過させてみると、葉脈や花が透けて見えることに驚き、「わぁ。葉っぱに筋が見える」と驚いていたり、捕まえたダンゴムシをテーブルに置くと、葉っぱの裏に隠れ「葉っぱの裏にダンゴムシがいるのが見える」と喜んでいる子どもがいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めて「hikari to table」を使う際の「驚き」や「ワクワク」を大切にしていた為、テーブルが光る瞬間を見てもらった。子ども達からは「凄いね」や「眩しい」などの驚く様子や「どうやって光っているの？」や「どうやって遊ぶの？」など興味関心を向かせることが出来た。保育者が見本を見せるとすぐに「やってみたい」と関心が向いたのが分かった。好きなように遊んでみると、アクリル板を重ねて色が濃くなったり色が変わる事で想像力が膨らみ、食べ物や家等に見立てて遊びが広がっていった。その後、保育者の声掛けにより公園で見つけられる自然物を集めて「hikari to table」に透過させてみると、葉っぱに筋がある事や草花が透けて見える事、葉っぱの下にいるダンゴムシも見える事に驚きと歓声が湧き、「こっちの小さい葉っぱはどうなるかな？」や「なんで葉っぱに筋があるんだろう？」と自然物への興味にも繋げる事が出来た。光の透過や色の変化から自然物への透過にも見る事が出来た。自然物への興味や探求心へと深めていく。